

道はどうして「解体する」と言っているの？

「構造的に老朽化を完全に防げない」「将来世代の負担軽減」が道の解体理由です

解体を具体的に決めたのは、平成30年12月の「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」という北海道百年事業で整備された「北海道百年記念塔」「野幌森林公園」「北海道博物館」「開拓の村」の今後のあり方を定めた計画です。このなかで記念塔は「今後の老朽化の進展を完全に防ぐことは困難」「利用者の安全確保や将来世代への負担軽減等の観点から、解体もやむを得ない」とされました。その後、道議会にこの構想の報告がなされましたが、記念塔解体が単独で議決されたことはありません。



①解体を決めた「空間構想」表紙

記念塔の外板パネルの穴あき、波打ち及び錆片の落下は、主に、雨水の塔内部への浸入や雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されますが、塔の構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しいことから、**今後の老朽化の進展を完全に防ぐことは困難である**との結論に至りました。

このため、利用者の安全確保や**将来世代への負担軽減等の観点から、解体もやむを得ない**と判断し、その跡地には、新たなモニュメントを設置することとします（発展的継承）。

[※百年記念塔の安全性に関する検討は41ページを参照]

②記念塔は「空間構想」9Pのこの記述で解体となった。「老朽化」が理由ではない。老朽化を【完全に】防げないことが理由。そんな建物があるのだろうか？

6 現状と今後の維持管理経費等

建設から50年近くが経過し、錆片が落下するなど劣化が進んでおり、平成26年7月から立入禁止としている。今後維持していくためには、多額の費用負担が見込まれる。

【今後50年間の維持管理経費等（H29.10試算 税込、耐震化経費含まず。）】

- ①展望室への立入を可能とする場合（立入禁止フェンス、落下事故防止屋根付き通路の設置など） 約28.6億円
- ②モニュメントとして維持する場合（立入禁止フェンスの設置など） 約2.6億円
- ③解体する場合 約4.1億円

※①、②のいずれにおいても、今後、錆片などの落下を物理的に防ぐことは困難なことから立入禁止エリアの設置が必要。

平成30年9月の台風21号により、立入禁止エリア内に部材の落下があった。

7 安全性の検討

(1) 専門コンサルによる調査結果（平成29年度実施）
ただちに倒壊する危険性はないものの、塔内の展望室に立ち入りできるような場合は、今後、部材の腐食等による不測の落下事故を完全に物理的に不可能に近いことから、その対策として、立入禁止エリアの設定の設置、落下事故防止用屋根付き通路が必要。

(2) 専門家ヒアリングでのご意見
耐震性、耐風性の担保など安全性が第一である。錆片など飛散物もあること、状態を維持しようとして周囲に立入禁止エリアをつくっても、上部の鉄板が落ちることがあれば、安全とはいえないのではないか。

(3) 外板の素材メーカーによる調査結果（平成30年度実施）
特定箇所に、外板パネルの穴あき、波打ち、及び錆片の落下が確認される。主に雨水の塔内部への浸入と雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定。これ以上の腐食進行を抑制するためには、雨水の浸入を抑制するための対策や排水の工夫等の補修対応が必要と考えられる。

(4) 補修工事の可能性
これまで、数々の大規模修繕や湿度対策工事などを実施しているが、構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は困難と判断。

③「空間構想」41Pのわずかに900文字が解体の根拠。50年間の維持管理費を試算した「H29.10試算」と安全性を検討した「専門コンサルによる調査結果」は「平成29年度北海道百年記念塔維持管理計画策定調査」という同じ調査。なぜか別な調査のように書いてある

維持するのに今後30億円もかかると聞いたけど？

平成23年管理計画で令和3年まで年間800万円で維持できるとなっていました

平成25年に行われた調査でも今後必要な年間の維持費は800万円でした。50年間で4億円です。しかし、平成29年に「今後50年間に6度の大規模修繕が必要だ」として突如20億円が加算されました。ところが情報開示を求めると、その20億円には内訳がないのです。道も「経費内訳はないものの業者において一定の根拠に基づいて積算されたものと認識しています」と認めましたが、未だに「一定の根拠」を示していません。けれども道の発表をそのまま報道するマスコミによって、多くの道民は高額な維持管理費を信じてしまいました。

① 早期に措置すべき事項（単位：千円）	
低層部外板部材の取換交換	334
主体鉄骨脚部のひび割れ補修	511
主体鉄骨交差部の腐食補修	531
外板腐食切れ補修、ボルト腐食部交換	620
角鋼管の脚部補強と防錆措置	31
外構の改修、掃雪	789
展望室の天井補修	532
エレベータ機械室外部床板交換	1,291
外板腐食部補修	741
見学者用階段手摺換装	691
合 計	5,973

② 5年サイクルで経常的に措置すべき事項（単位：千円）	
低層部外板部材の防錆防錆措置	全体を6年で更新 504/年
錆り錆の腐食出たの撤去	全体を6年で更新 1,487/年
外板ルーバー下層見取板の腐食改修	全体を6年で更新 2,217/年
合 計	4,208/年

③ 10年サイクルで経常的に措置すべき事項（単位：千円）	
主体鉄骨の防錆措置	全体を10年で更新 3,644/年
角鋼管、取付アングルの防錆措置	全体を10年で更新 718/年
塔内清掃（北塔、南塔隔年施工）	全体を10年で更新 566/年
合 計	4,928/年

④①×5年+②×10年+消費税）10年毎8,000万円

⑤【平成25年度北海道百年記念塔維持管理計画策定調査】25p。赤線では今後10年間の記念塔の維持管理費は年間800万円となっている

また、経費の積算にあたっては、(株)ドーコンから各種工事の専門業者に対して、上記調査に基づき、修繕が必要な箇所数や人工数等を示した上で見積書を徴取したものと聞いており、調査報告書において**経費内訳は示されていないもの**、受託者において一定の根拠を持って積算されたものと認識しています。

⑥令和4年9月に道が突如公表した「質疑応答」なる説明資料9p。大規模改修の費用試算約20億円に内訳が無いことを公式に認めた。コストにも根拠がない

道、百年記念塔解体へ 将来世代への負担懸念

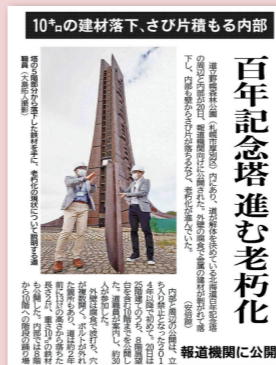
⑦北海道新聞（H30/09/05）。道の発表にはエビデンス（証拠）がない。しかしマスコミは調べることなく道の言うまま記事にする

④「空間構想」41pの「(2) 専門家ヒアリングでのご意見」「(3) 外板の素材メーカーの調査結果」の情報の開示を求めることと全面黒塗りだった。開示できない資料は根拠にならない

結局、老朽化で危険だから解体するというの？

100年耐久設計のまだ50年目。塔体は健全で、倒壊の恐れは全くありません

空間構想の41pに解体理由が書かれてありますが、情報公開制度を通してその根拠を求めると「黒塗り」でした。道は説明はしますが、決して根拠を示しません。そもそも百年記念塔は100年耐久を条件に設計されました。令和4年に建築の専門家が行った内部調査でも「問題なし」と判断されています。平成30年に部材が落下して老朽化の根拠とされましたが、これは平成4年に後付けされた部材で、日常の点検を行ってれば防げたものです。道は平成25年から塔の維持管理の手を抜き始め、平成29年からは完全に放棄しました。部材の落下は老朽化よりも道の管理責任が問われる事態です。



⑧北海道新聞（R2/06/21）。令和2年6月20日、道はマスコミを招いて落下部材を示し「老朽化」をアピールした



⑨令和4年7月3日「北海道百年記念塔の未来を考える会」内部調査写真。落下したのは赤枠の部材。定期点検で容易にぐらつきを発見できる場所にある

2 不在の理由	<p>①平成24年度から平成28年度までの書類については、保存期間(5年)の満了により廃棄しており、現に管理していないため。また、平成29年度から令和2年度、及び令和4年度の書類については修繕工事は実施しておらず、上記文書は作成していないため。</p> <p>②平成23年度及び平成25年度の上記文書については、保存期間(5年)の満了により廃棄しており、現に管理していないため。</p> <p>③緊急調査を実施した専門家から聞き取りした際の報告書について、保存期間(5年)の満了により廃棄しており、現に管理していないため。</p> <p>④平成26年度に実施した北海道百年記念塔の定期点検の報告書について、保存期間(5年)の満了により廃棄しており、現に管理していないため。また、平成24年度及び平成25年度、平成27年度から令和4年度までは日常の巡回整備を除き、定期点検を実施しておらず、上記文書は作成していないため。</p>
---------	---

⑩令和4年6月15日「公文書不存通知書」。定期点検は平成25年から、メンテナンス(修繕工事)は平成29年から放棄されたことが明らかになった。平成26年に錆片落下があったというがその報告書も破棄している。危険ならなぜ定期点検をしないのか？

だったら、なんで道はそんなに解体を焦るのかな？

解体を平成25年に密かに決め、管理の手抜きが問われることを恐れているようです

道内で「開拓」の排斥が進んでいます。北海道開拓は悪事だったかのようです。本来そうした風潮から守らなければならないのに、道は一緒になって開拓排斥を進めています。空間構想は記念塔解体の跡地に「多文化共生と多様性のモニュメント」を建てるとしました。道は「北海道の地域アイデンティティを開拓から多文化共生と多様性にしたい。北海道開拓の象徴は消し去りたい」と平成25年頃に考えたようです。密かに解体を決めて、維持管理の手を抜きました。解体中止になると管理責任が問われかねません。「解体ありき」で記念塔に問題があるかのように道民をミスリードしています。

百年記念塔進む老朽化

報道機関に公開

⑪「平成25年北海道百年記念塔維持管理調査報告書」(H26/1/31)29pと33pの一部。道は記念塔解体の検討は平成28年から言っているが、解体計画が経費内訳付きで詳細に述べられている。我々の追求でしぶしぶ存在を認めたが、内容は未だに隠している



⑫建築の専門家グループ「北海道百年記念塔の未来を考える会」の令和4年7月3日内部調査写真。5年以上放置状態であったとは思えないほど塔体は健全で、少しの不安も感じられなかった